



駒岡小学校だより

7月号

宿泊学習での学び

校長 松本 稔

4. 5. 6年生の宿泊体験学習が、7月初旬に行われる個別支援学級の三浦での宿泊学習を残し、終わることができました。

山や海で行う活動だけに天候が心配される中、いくつかの変更もありましたが無事に終了いたしました。

今年度の各学年の宿泊体験学習には、大きな変更点や新たなプログラムを取り入れ、今後の駒岡小学校の宿泊学習の方向性を考える良いきっかけにもなりました。

6年生は例年通り日光へ行きましたが、昨年度までの宿泊施設では今年の6年生を収容できず、奥日光のホテルに変更いたしました。宿舎の位置が、奥日光に変わったために、戦場ヶ原のハイキングコース等を変更したことが大きな変更点でした。ホテルのお風呂が源泉掛け流しの温泉になったことが、うれしい変更点でもありました。

4年生は宿泊場所を昨年度の神奈川県立愛川ふれあいの村から横浜市野島青少年研修センターに変更し、山での活動内容を海の活動といたしました。

5. 6年生は山の活動が中心となること、愛川の施設の老朽化、春に実施する場合の実施日を予約しやすいこと等が変更の理由でした。

今回の野島では筏を組み立てて海に浮かべて乗る活動を楽しみにしていましたが、天候が思わしくなく断念いたしました。海でこそできる活動ができず、少々寂しい結果になりましたが、初めての宿泊学習に取り組み、集団生活の大切さを学びました。

5年生は毎年、横浜市少年の家 赤城林間学園で宿泊学習を行います。4年生で体験した宿泊学習を生かして2泊3日の活動に取り組みます。今年度は赤城を拠点に水芭蕉で有名な尾瀬に足を伸ばし、尾瀬沼までの5時間、約三万歩のハイキングに挑戦しました。尾瀬の専門家にガイドをお願いし、高山植物や動物、尾瀬沼の環境など様々な角度からハイキングをしながら多くのことを学び有意義な活動ができました。

宿泊を伴う行事として今後の検討課題は、天候によるプログラム変更をどのように進めるか、宿泊学習の事前指導にどの位の時間を費やし、教育課程との整合性をどのように図るかなどです。

毎年実施する場所や内容が大きく変更されることは混乱を招きます。しかし毎年例年通りの形骸化した計画ではなく、子ども達の学びを実現できる宿泊学習にしていきたいと考えます。

毎年各学年の宿泊学習に同行して感じることは、一日目より二日目、更には午前中より午後の方が様々な活動の仕方が洗練されていくことです。活動を通して学びがあり、成長を見ることができ、学校に戻ってからの活動に生かされていることです。



一つひとつの活動をふり返り、次の活動に生かせるように、指導者は子ども達に寄り添い、支援していきます。解決すべきことが発生したときこそ、事前に話し合っただけの目標に向かって気持ちを一つにして力を合わせ、解決するときに子ども達の育つチャンスです。子ども達同士、関わり合いを生かした活動を通して一回り大きく育って帰ってきたのではないのでしょうか。これからの学校生活での活躍を見守っていききたいと思います。今後とも宜しくお願いいたします。

